

“いのちのつながり”に貢献する医療、研究のために

DIVERSITY +
INCLUSION

ダイバーシティ & インクルージョン

日本医科大学
NIPPON MEDICAL SCHOOL日本獣医生命科学大学
NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE UNIVERSITY

細やかな声掛けで、支援制度の活用に伴走

本事業に日本医科大学とともに取り組む日本獣医生命科学大学でも、女性や若手研究者がライブイベントと研究・仕事を両立しながらリーダーとして活躍できるよう支援しています。日獣大ダイバーシティ推進委員会・委員長を務める小竹佐知子氏に、小規模な大学ならではのきめ細かい取り組みも含めた支援の現状と今後の展開について伺いました。

日本獣医生命科学大学 ダイバーシティ推進委員会 委員長
応用生命科学部 食品科学科食品工学 教授 小竹 佐知子



上位職を増やすための業績づくりを支援

最終的な目標として、上位職の人数を増やすことに繋げなければなりませんので、業績づくりが非常に重要です。

日獣大ではほとんどの研究者が実験系で、実験室にいて自ら関わるのがとても大切になります。プロトコルが出来上がった後は学生などに任せられますが、学生も就職活動で忙しいため、研究支援員の配置が効いています。支援員は派遣会社を通じて確保しています。例えば、時短で早く帰る研究者は帰宅後にも支援員に実験を進めてもらうなど効果的な制度です。

研究助成も大事にしています。本事業では年間100万円規模を中心に、若手には20万円を支給。こうした規模の研究費を、自由に責任を持って運用することが、やがて科研費（若手枠3年間で約500万円）など大きいプロジェクトへ挑戦する力につながり、研究者の地位を高めることができます。

ただ、日獣大は女性研究者の数そのものが少ないため、このような制度があるから申請して下さいとお願いして申請してもらうこともあります。また、助成金を使い慣れておらず、資金を余らせてしまいそうな人には、あと1カ月間で使うように促すこともあります。今年からは、最初の段階から使って下さいとお伝えするようにしています。

英語論文投稿への資金支援と校閲支援も行っています。上位職の審査にも直結するので、良い取り組みだと思います。

一筋縄にいかなくてもやり続ける

ポストの公募に女性を優先しますと書くようになったことは、大きな変化です。私自身が人事の会議に出ていって、

「(ポストに)女性はいいますか?」と必ず聞くようになりました。ポストアップの教員は4人出て、このうち2人は昇任しました。あと2人に対してもきめ細かく伴走していきます。ただ、こうした変化については、男性の方々の間で戸惑いや複雑な思いも一部にあることでしょう。女性採用の必要性については、ダイバーシティ委員長として、メール発信したり、呼びかけを行ったりしながら、理解と協力を得られるよう、雰囲気づくりにも努めています。

さらに、いくら制度があっても子育てや介護に絡んで時間が取りにくいという話も聞こえてきます。介護の場合はお住いの地域が関わるので、勤務先の支援だけあっても、なかなか一筋縄にはいきません。男性でも支援を必要としている人がいるはずですので、ここは国レベルでの支援にも期待したいです。

変化を常識にするために

西洋社会と同じように女性上位職の登用目標値を設けての取り組みは、少しずつしか進んでいないかもしれませんが、5～6年後には変わってくると思います。その兆候はすでにあります。以前、卒業生を講師に迎えて話してもらう場を設けました。彼女たちの話を聞いていると、女性も転職しながら仕事を続けていくこと、子育てしながら仕事を続けていくことが当たり前になっていて、とても喜ばしく思いました。日獣大は人数が少ないので、数少ない女性研究者同士で助け合っていく環境の中で、女性リーダーとしてチャレンジしようとする人たちに対して、きめ細かい声がけや支援を行ってきたいです。

日獣大 ポストアップ教員制度(令和6年12月1日施行)

近い将来の活躍が期待され、意欲ある女性研究者を「教授(ポストアップ)」、「准教授(ポストアップ)」に登用し、3年以内に正式な昇任を目指し、未来の女性リーダーとして育成する制度です。

目的 優秀な女性教員の育成を促進し、大学の教育研究活動の活性化

対象 日本獣医生命科学大学飛躍的女性上位職登用プロジェクトチームが選考[※]し、学長が3年以内に上位職への昇任が可能と評価した准教授及び講師
[※]原則として、女性研究者研究費支援採択者。研究業績をリストアップして候補者を選出

職名 教授(ポストアップ)、准教授(ポストアップ)
 教授は、学部教授会及び合同教授会の出席は不可

選考 合同教授会における審議を経て、学長が決定し、理事長に推薦

任期 3年 **定員** 原則として、定員の枠内

支援 研究費支援、研究環境整備等



※3年以内に昇任しなかった場合は、ポストアップ教員前の職位となる。

ポストアップ教員の紹介

令和7年3月に教授(ポストアップ)3名と准教授(ポストアップ)1名が誕生しました。



奈良井 朝子

応用生命科学部 食品科学科
 農産食品学

教授(ポストアップ) 令和7年3月1日
 前職: 准教授

これまでの活動を振り返り、今後の方向性を見つめる良い契機となりました。様々な業務で多様な人と協働し、互いの強みを生かしながら、教育と研究の軸を保ち、できることを着実に積み重ねる姿勢で組織に貢献していきたいと考えています。



山本 昌美

獣医学部 獣医保健看護学科
 獣医保健看護学応用部門

教授(ポストアップ) 令和7年3月1日
 前職: 准教授

このたびの機会は大きな叱咤激励と感じています。仮免許から無事に本免許をとれるよう、熱意と感謝、バランス感覚を忘れずに、病理学の教育と研究にさらに新たな気持ちで取り組みたいと思います。



江草 愛

応用生命科学部 食品科学科
 食品機能化学

教授(ポストアップ) 令和7年3月1日
 前職: 准教授

今回、新たな挑戦の機会を頂きましたことを改めてお礼申し上げます。感謝の気持ちを胸に、研究と教育に一層尽力し、研究テーマの「食肉タンパク質の摂取」を通じて人の健康に貢献して参る所存です。



彌吉 直子

付属動物医療センター

准教授(ポストアップ) 令和7年3月1日
 前職: 講師

私は動物医療センターで小動物の放射線治療と画像診断に従事しています。今後も臨床業務に携わりながら、男女関係なく、若い獣医師が意欲と希望を持って成長できる環境づくりに努めてまいりたいと思います。

令和7年4月1日付で、奈良井朝子先生は教授に、彌吉直子先生は准教授に昇任しました。

また、山本昌美先生と江草愛先生は、現在、学長や小竹ダイバーシティ推進委員長と定期的に面談を行い、目標意識をさらに高めるとともに、業績の件数を積み上げるための今後のスケジュールについて話し合うなど、継続的なバックアップを受けています。

日獣大の 女性リーダー育成型の支援制度

研究活動とキャリア形成を両面から支援、女性研究者の挑戦と成長、次世代リーダーとしての活躍を後押しします。

- 飛躍的研究支援員配置制度
- 飛躍的共同研究費助成制度
- 国際学会発表助成制度
- 論文投稿費用助成制度
- 研究費支援
- 研究力強化／5年後キャリアサポート支援制度／大学院女性フェローシップ制度

飛躍的共同研究費助成制度とは

獣医・農学(生命科学)領域での産官学連携の共同研究を促進するもので、次世代の上位職を担う女性研究者に、活躍に必要な研究費を配分し研究の推進及び研究力向上を支援します。

大学院女性フェローシップ制度とは

研究力の向上を図るとともに、ロールモデルとなる女性教員との交流、セミナー等への参加の機会を提供し、大学院生のキャリア形成を支援します。

日々是好日

～女性研究者として生きる～



日本医科大学
総合医療・健康科学
准教授(教育担当)
米本 崇子(聞き手)

お話を伺った研究者

日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科
農産食品学 教授 奈良井 朝子



本誌編集委員の日本医科大学・米本崇子准教授と、女性研究者との対談シリーズです。

大学卒業から現在に至るキャリアについて教えてください

東京大学農学部農芸化学科を卒業し、同研究室で博士課程まで進学しました。そこでは、腸管上皮細胞による栄養素吸収の制御機構について研究していましたが、もう少し食品そのものについて学ぶ機会があればいいなと感じていた頃、日本獣医畜産大学(当時)で助手の公募があり、複数の先生方から同時にお声がけをいただきました。研究内容が植物性食品の酵素の働きを調べるという点で興味深く、さらに次世代育成ということで教育の分野なら自分も関わりやすいかもしれないと思い、就職を決めました。

同じところでずっとお仕事しているので、ライフイベントの時も受け入れられやすい環境でしたか？

そうですね、受け入れてもらうために、私自身もいろいろ努力したつもりです。頼まれた仕事はなるべくやろうと。受け入れてもらえたのは、それまで必死にやっているところを上司の先生が見て下さっていたお陰かなと思います。

私は、家庭はもちろん大切ですが、仕事も大事だと思っています。研究を通じて、分からないことが分かる喜びや学生の成長に接する楽しさに触れていたいですし、家庭を優先して仕事を切るといった

発想はありませんでした。夫の協力と近くに住んでいた義両親のサポートもあり、また、実習中は遠方の両親に来てもらうなどして、研究を続けることができています。

奈良井先生のように子育てもしながら好きな研究を続けていける女性研究者が増えるためには、どのような支援のあり方が望ましいと思いますか。

個々人で状況が全く異なりますし、支援を受けたからといってすぐに研究業績が出るものではありません。成果だけを求められると、逆に「もうそういう支援ならいりません」と尻込みしてしまうこともあるでしょう。

複数の支援策を用意して、「今何が心配で、必要な支援はどんなことですか?」と個々に尋ねて寄り添い、解決策と一緒に探すような窓口があるとよいかもしれません。

私たち女性教員・研究者が働く姿を見せることで、学生たちが将来どの職場に行っても、女性の子育てしながら仕事をするのは当たり前だと考えられる環境づくりに繋がるといいなと考えています。

さらに詳しい内容はウェブサイトでお読みいただけます



新コーナー

留学LOG

海外研修助成制度を活用し海外に挑戦した研究者の貴重な体験の一端をご紹介します。



【留学期間】2025年4月26日～2025年6月1日

【留学先】イギリス(ロイヤルフリーNHストラスト国立アミロイドーシスセンター)

年に一度の業務報告会に参加、大きな学びに

留学先はUCL内のNational Amyloidosis Centre(NAC)で、アミロイドーシスに関する診断、治療、研究を行う、世界で2番目に大きな施設です。国際学会などで面識のある先生方でもあったため、研修を快く承諾いただくことができました。滞在中にAuditという年に一度の業務報告会にも参加し、NAC内の各部署の状況を知ることができました。研究者側からは紹介状など最低限の患者情報が得られる一方で、医師はカルテからプロテオームデータや遺伝子データに直接アクセスすることができます。このシステムのおかげもあってか、毎週行われる多業種カンファレンスでは、モニターに患者カルテ画面が映され、全員で誤字を指摘し合いながら1時間ほどで10名以上の症例をどんどん診断していました。カルテシステムがNACに特化していることも要因ですが、こうしたスピード感は日本も見習うと良いのではないかと思います。受け入れ担当者やそのスタッフが産休・育休に入る影響で、想定していた研修とは異なり途方に暮れたこともありましたが、数日間受け入れた他大の大学院生とともにロンドンにあるたくさんのラボを訪問し、イギリスの大学教育や研究資金などについて予想外の発見や学びもありました。何より、異国の地での生活は日々の小さな達成感に心躍る日々で、私の今後の人生の糧となる経験をさせていただきました。

この続きはウェブサイトで全文お読みいただけます



支援Picks



留学のリアル

留学中の研究者5名が、準備や現地の生活、お金のことや育児などをリアルに語ります。留学のヒントになる話題が盛りだくさん!

視聴はこちらから



馬と猫のいる幸せ ～動物とともにあるワークライフバランス～

日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医保健看護学科
獣医保健看護学応用部門 教授 小林 眞理子

学生時代に少しですが乗馬経験があったことから、日獣大保健看護学科が設立された際に、動物介在療法論の乗馬療法の内容を担当することになりました。学生に講義をする上で乗馬の知識は必要と思い、何十年ぶりに乗馬を再開しました。はじめは授業に役立てることが目的でしたが、私の博士号の課題であった元素汚染の生物モニタリング関係の研究で、馬を材料として論文をまとめることができました。また、動物介在の分野でも論文をいくつか書くことができ、最初は仕方なく再開した乗馬を自分の研究にも役立てることができました。とはいえ、頭が良すぎて問題行動だらけの馬を押し付けられ、心が折れそうな日々もありました。しかし、途切れることなく飼っていた猫とは違い、乗馬という仕事をさせる難しさがある馬との経験を通じて、コミュニケーションを取ることは、人だけではなく動物に対しても重要であることを教わったと思います。写真は、競技会に参加した時のものです。頭が良すぎる、首が太くて短く力がある、身体が柔らかすぎる——という大変乗りにくい馬なので、私の技術ではなかなか上のクラスへ参加できませんが、それでも私にとっては楽しい時間です。



私とゴールデン・ハイディ号

福太郎(カラスに襲われていたのを
友達が助け、今は私の愛猫です)



動画配信はこちら

活動報告

…動画配信あり

リサーチコロボMeetup!開催

2025年9月19日、「リサーチコロボMeetup!」をオンライン開催し、日医大・日獣大の研究者25名が参加しました。若林あや子先生、市川智子先生が研究成果を発表し、関根鉄朗先生と堂本裕加子先生の話提供を元に共同研究についてグループディスカッションを行いました。共同研究の始め方、課題の解消などを議論し、「具体例が参考になった」「少人数の意見交換が楽しかった」と好評でした。初の参加者も多く、研究者のつながりが生まれました。今後は科研費獲得や企業連携などのテーマも期待されます。

女性リーダー育成型シンポジウム開催のご案内 女性研究者の活躍が拓く未来

日医大と日獣大は、女性リーダー育成型事業が中間地点を迎えたことを受け、シンポジウムを開催します。取り組みの成果報告、リーダーとして活躍する両大学の助成研究者の発表とパネルディスカッションを通じて、女性リーダーの活躍とダイバーシティ研究環境実現の意義を発信いたします。

【日時】2026年1月30日(金)
16:00～17:30/Webex開催

ぜひご参加
ください



参加申込は
こちらから

牽引型(継続)

2025年9月24日
国際交流セミナー(国際交流委員会共催)(日獣大)
10月～
第6回女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト
11月17日
新型研究支援員配置制度研究成果発表会(日医大)

【活動予定】

2026年2月7日
三鷹ネットワーク 日獣大企画講座 単講座

女性リーダー育成型

2025年9月19日
イベント「リサーチコロボMeetup!」(日医大)
10月10日
セミナー「ツール(JoVE/EndNote)を活用して効率的・効果的に研究力を高めよう!」
12月16日
リサーチカフェ第3回～基礎と臨床の垣根を越えて～「知っておきたいAIのキホン」
12月23日
URAセミナー「研究マネジメントとリーダーシップ育成」(日獣大)

【活動予定】

2026年3月6日 研究スキルアップセミナー
3月14日 リーダー育成プログラム研修(日医大)
3月31日 動画配信「ライフイベントとともに働く～治療編～」

編集後記

日獣大でのポストアップ教員制度の進展が紹介されました。奈良井朝子先生はポストアップから正式に教授職に昇任され、ワークライフバランスや支援制度の課題について芯のあるお話を頂いています。今後も日獣大の取り組みを是非、ご覧ください。(倉岡)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)

【代表機関】日本医科大学 【共同実施機関】日本獣医生命科学大学

【編集・発行】学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131

one-health.jp

詳しい記事や講座へのお申し込みなどは
One Healthのウェブサイト
をご覧ください

